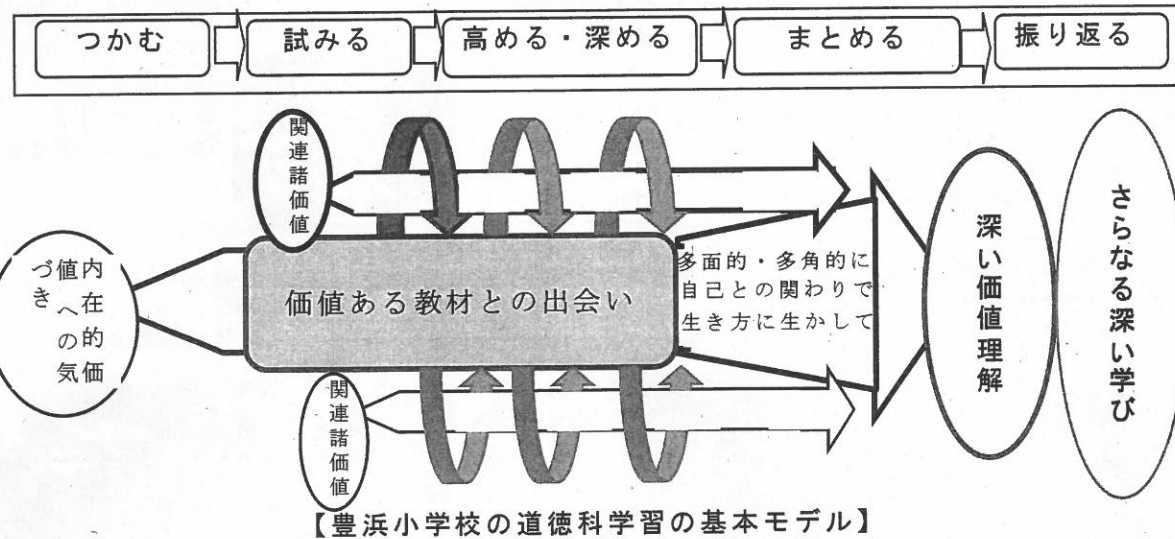


1 研究主題

自己をみつめ、よりよい生き方をともに求める道徳
～自ら問いかけ、考え、対話を深め心に響く道徳学習の創造～

2 研究の具体

- (1) 新学習指導要領に準拠した教育計画の策定
 - ① 道徳教育全体計画と各学年の道徳の授業の年間計画の見直し
 - ア 新学習指導要領に照らし合わせた道徳の授業計画の確認
 - イ 総合的な学習、学活、行事活動等との関連を持たせた指導時期の見直し
 - ウ 重点項目の効果的指導を意識した見直し
- (2) 特別の教科道徳の授業実践
 - ① モデルとなる学習過程と効果的指導・支援法



- ② 思考力・表現力を伸ばし、議論を喚起する話型の活用
 - ③ 道徳科の価値にせまる話型の活用
 - ④ 道徳科授業計画シートの開発・活用
 - (3) 評価補助簿の積み上げ
 - ① 指導と評価の一体化を図る評価補助簿の活用
 - (4) 道徳科を要とした、他教科の実践
 - 別葉を活用した授業計画とその運用
 - (5) 特色ある体験活動・学習環境整備
 - (6) 学・家・地域連携（環境・授業支援）
 - 情報発信と、児童の未来像の共有化
- 3 研究の検証
- 児童が自分事として捉えながら、考えを述べたり話し合ったりしていこうとする様子が多く見られるようになった。
 - 教師は、教材のもつ魅力を感じながら、児童の実態に応じた様々な迫り方を工夫するようになった。
 - 道徳科の評価に向けて、補助簿に蓄積した評価内容を見直すとともに、観点や方法の整理をさらに行う必要がある。
- 4 改善の手立て
- さらに、児童が自分事として捉えながら学習に取り組めるように、意図に合った具体的手だてや、発問の工夫を開発していく。
 - 評価の観点を、見直しさらなる改善につなぐ。

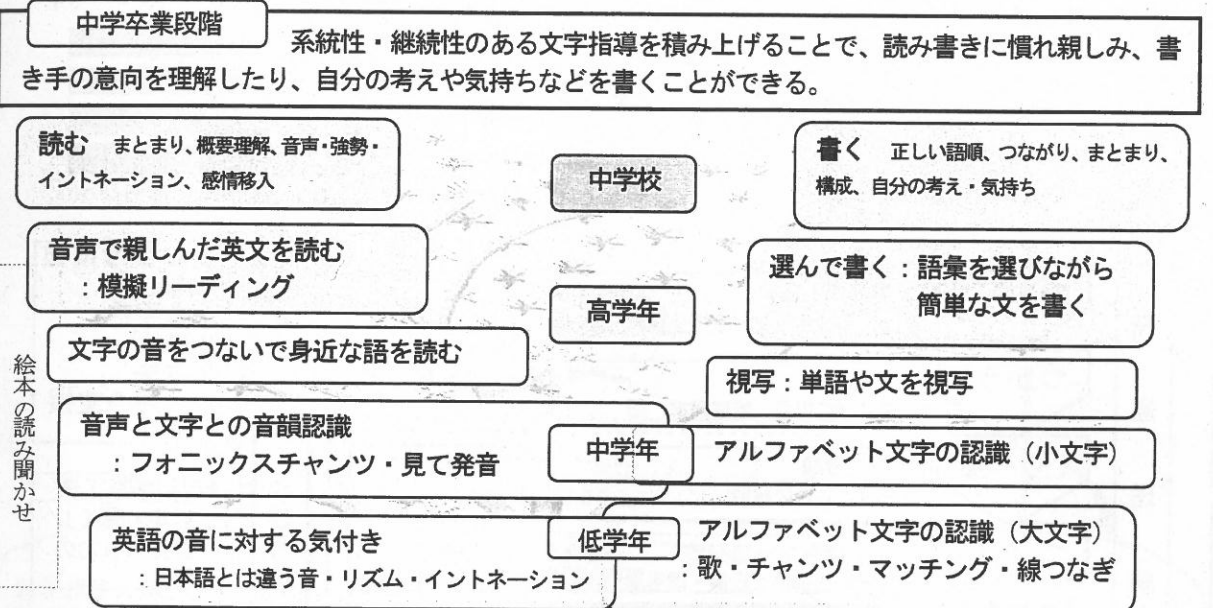
1. 研究主題

コミュニケーション能力と豊かな国際感覚の育成
「読むこと」「書くこと」、「話すこと（やり取り）」の小中連携を通して

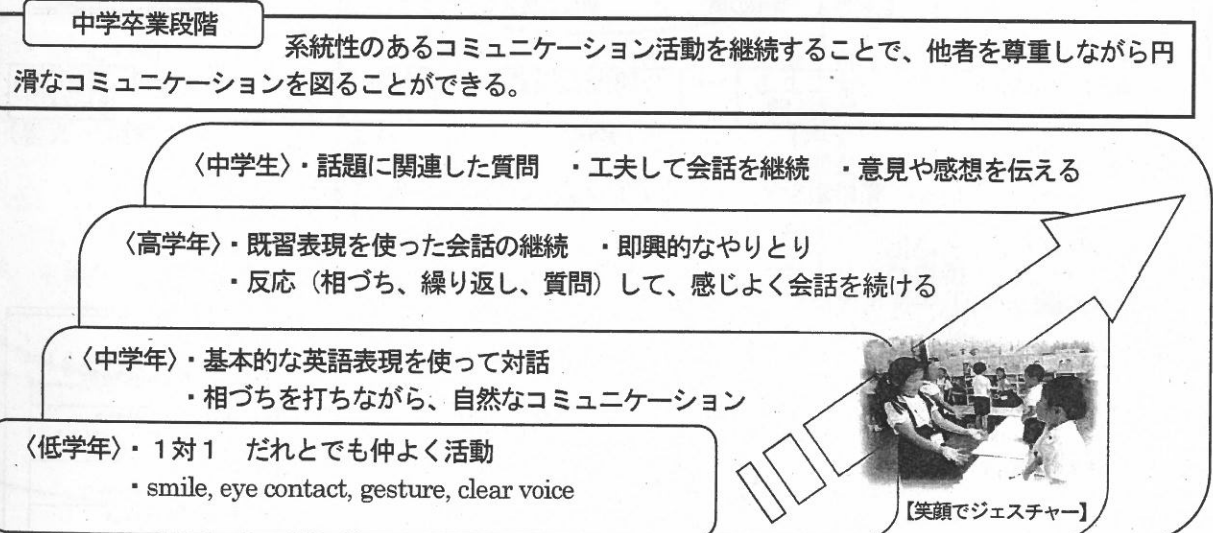
2. 研究の具体

【外国語に置ける円滑な小中連携】

① 「読むこと」「書くこと」の小中連携



② 「話すこと（やり取り）」の小中連携



3. 研究の検証及び改善の手立て

- ・小学校
 - 系統的に繰り返し指導を進めていくことで無理なく文字の認識が進み、既習表現を確実に身に付けることでやり取りの幅が広がった。
- ・中学校
 - 既習表現を使って表現しようとする態度や能力が身に付き始め、即興性を生かしたコミュニケーション能力の高まりがみられるようになった。
 - 相手を意識した表現方法に課題が見られる。